経営比較分析表(平成28年度決算)

佐賀県唐津市 唐津市民病院きたはた

EXMETTING CONT.					
法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報	
当然財務	病院事業	一般病院	50床以上~100床未満	非設置	
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2	
直営	6	-	-	救	
人口(人)	建物面積 (㎡)	不採算地区病院	看護配置		
125 001	4 573	第 2 種該当	20 · 1	1	

許可病床 (一般)	許可病床 (療養)	許可病床 (結核)	
-	56	-	
許可病床 (精神)	許可病床 (感染症)	許可病床 (合計)	
-	-	56	
稼働病床 (一般)	稼働病床 (療養)	稼働病床(一般+療養)	
-	56	56	

- グラフ凡例
 - 当該病院値(当該値)
 - 類似病院平均值(平均值)

地域において担っている役割 入院では、医療必要度の高い慢性期患者の受け

皿としての機能やリハビリ等の在宅復帰に向けた サポート機能を担っている。外来では、総合診療 機能や地域に不足している在宅医療への積極的な

取り組みにより地域のかかりつけ医としての役割

を担っている。また、地域包括ケアシステムの構

築については、『地域密着型ハブ病院』としての

体制を確立させ、先進的事例となることで、市全

経常収支比率は、100%を上回っており黒字経営

医業収支比率は、類似病院を上回っているものの

病床利用率は、医療連携の積極的な取り組みによ り、類似病院より高い水準を維持している。

入院患者1人1日当たり収益は、当院の入院機能が 療養のみのため類似病院を下回ることになる。 外来患者1人1日当たり収益は、外来の大部分が高 齢者の内科診療(再診)であるため類似病院を下回

職員給与費対医業収益比率は、非常勤職員での業

材料費対医業収益比率は、当院の医療機能から高

ハ比率とはならない。取り組みとしては、後発品の

有形固定資産減価償却率は、平成17年の病院新

設から11年と比較的新しいことから、類似病院を

機械備品減価償却率は、法定耐用年数経過を理 由に安易な機器更新は行わず、適正な保守点検や

修繕を実施しながら機器を長期間使用しているた

1床当たり有形固定資産は、当院の医療機能か ら高度医療機器を保持していないため類似病院を

累積欠損金は、平成23年度に解消済みである。

体での取り組みに繋げる役割がある。

を平成21年度から継続している。

直近の2ヶ年は100%を下回っている。

務対応により類似病院を下回っている。

採用や、在庫管理の適正化に努めている。

め、類似病院を上回ったと思われる。

2. 老朽化の状況について

経営の健全性・効率性について

分析欄

ることになる.

下回っている。

下回っている。

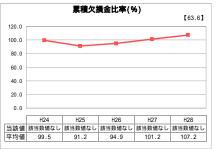
【 】 平成28年度全国平均

- 1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン(放射線)診療
- 2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

1. 経営の健全性・効率性









「経常損益」

「医業損益」

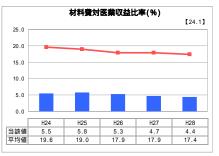
「累積欠損」

「施設の効率性」









「収益の効率性」

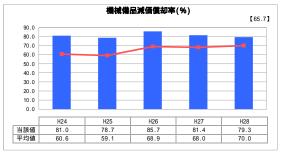
「収益の効率性」

「費用の効率性」

「費用の効率性」

2. 老朽化の状況







「機械備品の減価償却の状況」

「建設投資の状況」

小規模病院で医療機能としては療養型のみではあ るが、他医療機関等との積極的な医療連携や、地域 のかかりつけ医としての地道な取り組みにより収入 を確保し、人員配置の適正化、委託業務や使用機 器・材料の見直し等により費用を削減することで健 全な病院経営を継続してきた

今後は、改革プランの目標である医業収支比率の 100%達成に向け、収入面では他医療機関等との更 なる連携強化と適正なベッドコントロールにより病 床稼働率を高い水準で維持し、 医療必要度の高い患 者受け入れにより入院収益の確保に努める。支出面 では、人員配置の適正化の継続、各種業務の随時見 直し及び投資事業の適正な実施により無駄な支出を

健全経営を継続するとともに、地域包括ケアシス テムの早期構築に向け『地域密着型ハブ病院』とし ての体制確立に取り組む。

※「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。